

「医学部受験を」固執した母、抗えなかった私 20年後に聞いた真意

有料記事 フォーラム

福井万穂 2024年2月5日 6時00分



関西地方に住む会社員の女性(46)は数年前、滋賀県で起きたある殺人事件のニュースに目を留めた。母親から長年、医師になるよう求められた長女が、その母を殺害したという内容だった。背景に「教育虐待」があったとの指摘に、はっとした。

「私も、それだったのかな」

中学受験で塾通い、髪の毛が抜けた娘 「追い詰めた」母の反省と不安 →

母は専業主婦、父は公務員。ずっと母から「医者になること」を期待されて育った。小学校のテストで100点以外の点数を取ると、「なんで間違ったの？」と小言を言われた。中学の定期テストの順位は学年で常に10番以内だったが、1度だけ10番台を取ると「あんた、この点数でよく帰ってこられたね」と突き放された。また、「家庭のことをよそで話すのはダメ」と友達や学校の先生に相談することを禁じられた。

望まない医学部進学を強要され、長く苦しんだ女性。最終的に選んだ進路とは。そして20年以上が経ち、当時の真意を尋ねられた母親から出た言葉は。また記事の後半では、教育虐待の「処方箋」について、専門家が語ります

「文系に良い仕事なんてあるわけない」

そんな母に、女性は高校のとき、初めて異を唱えた。医師の責任の重さは背負えないと感じ始めていた。国語は全国模試の順位表に名前が載るほどできたが、数学が苦手だった。「医者に

なりたくない。文系に進みたい」。2年次の文理のクラス分けを前に、意を決して伝えた。

だが、両親は「文系に良い仕事なんてあるわけない」と猛反対し、口を利いてくれなくなった。1週間ほど続いた頃、女性は「私が折れるまで終わらないんだ」と悟り、あきらめた。「理系に進んで、医学部を目指す」と言うと、両親は大喜び。学校の先生からは「文系ならもっといい大学を狙えると思うけど、いいのか？」と聞かれたが、うなずくしかなかった。

やはり理系の勉強には苦戦し、数学はクラスで下から数えるほどの順位に。受験した国立大の医学部は不合格だった。両親から「浪人させてあげるから、何とか医学部に」と言われ、「お金を払ってもらうんだから」と父に土下座するよう母に指示された。仕方なく、頭を下げた。

浪人したが、1年後の大学入試センター試験(当時)も振るわず、結局、医学部以外を受験して合格した。この頃には、両親も医学部は諦めたようだったが、「名前の通った国立大にして」と言った。進学先は、現役時の学力でも余裕で合格が見込めた大学だった。徒労感が残った。

医学部に固執、母の真意は

20年以上が経ち、ずっと気になっていたことを母に尋ねてみた。

「あのとき、なんであんなに医学部にこだわっていたの？」

「悪かったね」といった言葉を期待したが、返事は違った。「たしかになんでだろうね」。「そうじゃなきゃ、もっと良い大学にいけたかもしれないのにね」とも続けた。あの頃、母に振り回されて苦しんだ自分は、一体何だったんだろう。刃のように言葉が心に刺さった。

母の真意は、今も分からない。ただ、いつも「娘が周りからどう見られるか」を意識しているようだった。「医者」「医学部」は「勉強ができる子」の象徴で、娘が優等生であることをステータスのように感じていたのだと思う。

当時の自分は、「もう医学部からは逃れられない」とあきらめていた。今は、もっと学校や塾の先生に相談すればよかったと思う。先生から「文系の方が合っている」と進言してもらえたら、親の反応も違ったかもしれない。

幼い頃から「家庭のことをよそで話すな」と言われていたため、誰かに助けを求める発想がなかった。「優等生と思われたいいけない」という気負いもあった。

女性は今、小学生の子ども2人の母になった。当時の母を反面教師に、子どものやりたいこと

を尊重するよう心がける。「『教育虐待』という言葉や概念が広まることで、子どもが自分の置かれた状況のおかしさに気づき、周りに相談するきっかけになるのでは」(福井万穂)

教育虐待をなくすために、できることは

教育虐待をなくすために、親子や周囲はどうしたらいいのか。この言葉を2011年の日本子ども虐待防止学会で初めて発表した、一般社団法人ジェイス(東京都)代表理事で臨床心理士の武田信子さんに聞いた。

——そもそも教育虐待とは？

子どもの心身の限界を超え、親が教育を強制することが狭義の教育虐待です。必要な教育機会を与えない教育ネグレクトも合わせれば、広義の教育虐待となります。「教育」は勉強だけでなく、スポーツや音楽なども含みます。

——取材で話を聞いた、教育虐待を受けた経験を持つ人たちは「親の方針に逆らうことはできなかった」と話していました。子どもが親に異を唱えることは、やはり難しいのでしょうか。

難しいでしょうね。昔の長屋と違って、家庭が地域にオープンな状態ではない今、子どもは他の家庭の様子を見る機会が非常に少ない。子どもにとっては自分の家庭の価値観が全てで、他の文化を知らないのです。おかしさに気づく機会もありません。その中で、親からの期待に応えられないと、子どもは罪悪感を持ってしまう。これは、広く虐待といわれる行為に共通する点だと思います。

うまくいかないと「人生アウト」？ 思い込まないで

——子どもを持つ親が、意識すべきことはありますか。

受験結果や学校のブランドで子どもの人生が決まるわけではない。失敗しても人生はやり直せるし、金や地位と幸せは比例関係ではない。まずは、それらを見失わないこと。そして「親として、子どもの人生をコントロールしなくては」などと思い込まないことです。

例えば、朝顔の鉢を一つ与えられて、面倒を見るように言われる。その1鉢をきれいに咲かせられないと、「あなたの管理が悪かったからですよ」となってしまう。子育ても同様に、うまくいかないと「子どもの人生も、親である自分の人生もアウト」と思い込まされてしまうのが、今の社会ではないかと思います。

昔はもっとたくさんの子どもがいたし、水やりを忘れても周りの人がやってくれたりした。親と子どもだけでは完結せず、親を手助けする社会がもっと広がっているはずなのに、今はなんでも「親の責任」というふうに見る世間があるわけですね。とても一人や二人では負いきれない責任を、負わされてしまっているように映ります。

親の気持ち受け止め、整理する第三者を

——教育虐待が疑われる親子が身近にいるとき、周りができることはありますか。

その親と話し合いができる関係なら、まずは「なぜそこまでやるのか」を聞いて、その気持ちを受け止めることです。多くの場合、背景には「そうしないと、この子の人生が」とか「私が周りから責められる」とか、様々な思いがあると思います。

また、特に都市部の小学校では、同級生の大多数が中学受験をするといった環境もあります。そうすると「もし公立に行かせたら、何が起きるか分からない」「受験させなきゃダメだ」などと思いつ込んでしまいがちです。

そうした思いを、まずは受け止める。その上で「このまま無理やりやらせると、もっと勉強嫌いになる」「そうなると、この先きつと困る」と気づき、考えてもらうことが必要です。家族でも友達でも、学校や塾の先生でも、精神科医や臨床心理士でもいい。第三者に親としての気持ちを聞かせ、整理してもらおうといいでしょう。

同時に、被害者になっている子どもを救うことも大切です。子どもが自分を責めなくてもいいように、周囲に守ってくれる誰かがいてあげてほしいですね。

「勉強は楽しい」、思えないなら

——社会が変わるべきことは？

小・中・高・大と、みんなが同じように進むのが当たり前、という感覚自体を見直すことだと思います。例えばオランダでは、小学生でも留年や飛び級があります。そもそも同じ年齢の子どもが同じように育つとは考えていない。子ども一人ひとりのタイミングで、勉強したいと思ったときにできるシステムがあれば、今のような比較や競争は起きません。

子どもは本当に面白いと思ったら、自分の中から「勉強したい」という気持ちが出てくるものです。小中学校では遊びまくっていた子が、高校に入ったら急にがーっと勉強し始めたりする。「勉

強は楽しい」と思えない状態で、無理に勉強を続けようとするのは、そもそもおかしいと思います。

——教育虐待という言葉は近年、注目を集めています。

私が最初に教育虐待に関する本を出したとき、メディアの取材で「どうやったら教育虐待をせずに子どもを『成功』させられますか」といった質問をよく受けました。子どもの意思を尊重する、という原点に立ち返らず、「自分は教育熱心なのであって、虐待ではない」と思いたいがための情報収集では、意味がありません。

親の多くは、まさか自分の言動が子どもにトラウマを与えているとは思わない。でも、親の立場ではほんの小さなことに思えても、子どもの中につらい気持ちが積み重なると、やがて大きな傷になることがある。教育虐待という概念や、子どもに与える影響について親が学び、考える機会を増やすことが必要だと思います。



フォーラム →

フォーラムはみなさまの議論の広場です。その議論に記者が参加させていただき、集まった声をもとに新しいニュースを探ります。[もっと見る]

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.